

地域農業の活性化と地域経済への効果を期待しているところですが。

## 海の駅

**問** 拓海地域への整備について

**答** 中核拠点施設の整備については、長浜地域の活性化を図る上で非常に重要な施策であると認識しています。しかしながら、拓海地域での海の駅建設については、拓海地区の遊休地は現在すべてが民有地であることから、この場所での建設については買収による用地の確保が必要となります。また、拓海地域は工業団地として多くの企業が操業しており、遊休地への企業誘致が長浜地域の活性化を図るための主要課題として取り組んでいるところであり、仮に、当該施設を整備した場合には、企業誘致を進める上での障害になることも考えられます。さらに、拓海地域は長浜の中心市街地から離れており、地域の交流、振興に寄与できる施設の設置場所として

適しているのかなど、さまざまな問題が想定されることから、この地域での建設は適当でないと考えています。海の駅建設構想については、長浜町第3次開発事業基本計画の中で拠点施設として位置づけ、今後実現に向けた可能性を模索する段階であり、長浜水族館等海浜構想検討報告書の中でも、施設のあり方について検討をしています。

水族館や海の駅建設構想などが期待される長浜地域



## ふれあいパーク

**問** 整備状況について

**答** ふれあいパーク\*の整備工事については、平成18年度までに用地買収を完了し、平成19年度から貯留施設の工事に着手しています。掘削に伴い多量の建設発生土が生じることになり、公共工事間で調整を図る予定でしたが、土質が粘土質であるため、受け入れ地の調整のため工事期間を2年間延長し、平成19年度は貯留施設から都谷川へ流出する配水管の布設と越流部の擁壁工など、残土処理を必要としない工事を実施しました。

その後、受け入れ地を拡大して近隣の農地盛り土や民間造成地などへ無償で搬出し、また、公共工事間の受け入れ調整も引き続き行い、県道改良工事での受け入れも可能となりました。さらに、地産地消拠点施設の造成工事の一部に利用する計画であり、これによりふれあいパークでの建設発生土すべてが処理できる



整備中のふれあいパーク

見込みとなりました。

このことから、平成20年度は、貯留施設の掘削残土運搬及び本体工事を発注して平成21年度には貯留施設を完了させ、引き続き公園整備に着手し、平成23年4月の開園に向けて取り組んでいきたいと考えています。(\*ふれあいパーク：レクリエーション活動の場または水害時における貯留施設として整備される公園。大洲インターチェンジに隣接しており、周辺地域と調和した都市景観の形成が図られる。)



## 青少年育成

**問** 緑の少年団の育成について

**答** 緑の少年団は子どもたちが緑を守り育てる活動を通じて、自然を愛し、人を愛し、みずからの世界を愛する心豊かな人間に育てていくことが最も基本的な目標で、現在県内の小・中学校を対象に、111団体が組織化されている状況です。当市においては、今年10月愛媛県で第32回全国育樹祭が開催されることを契機に、緑の少年団の新規結成の推進を図ったところ、大

緑の少年団活動(大和小学校)

